

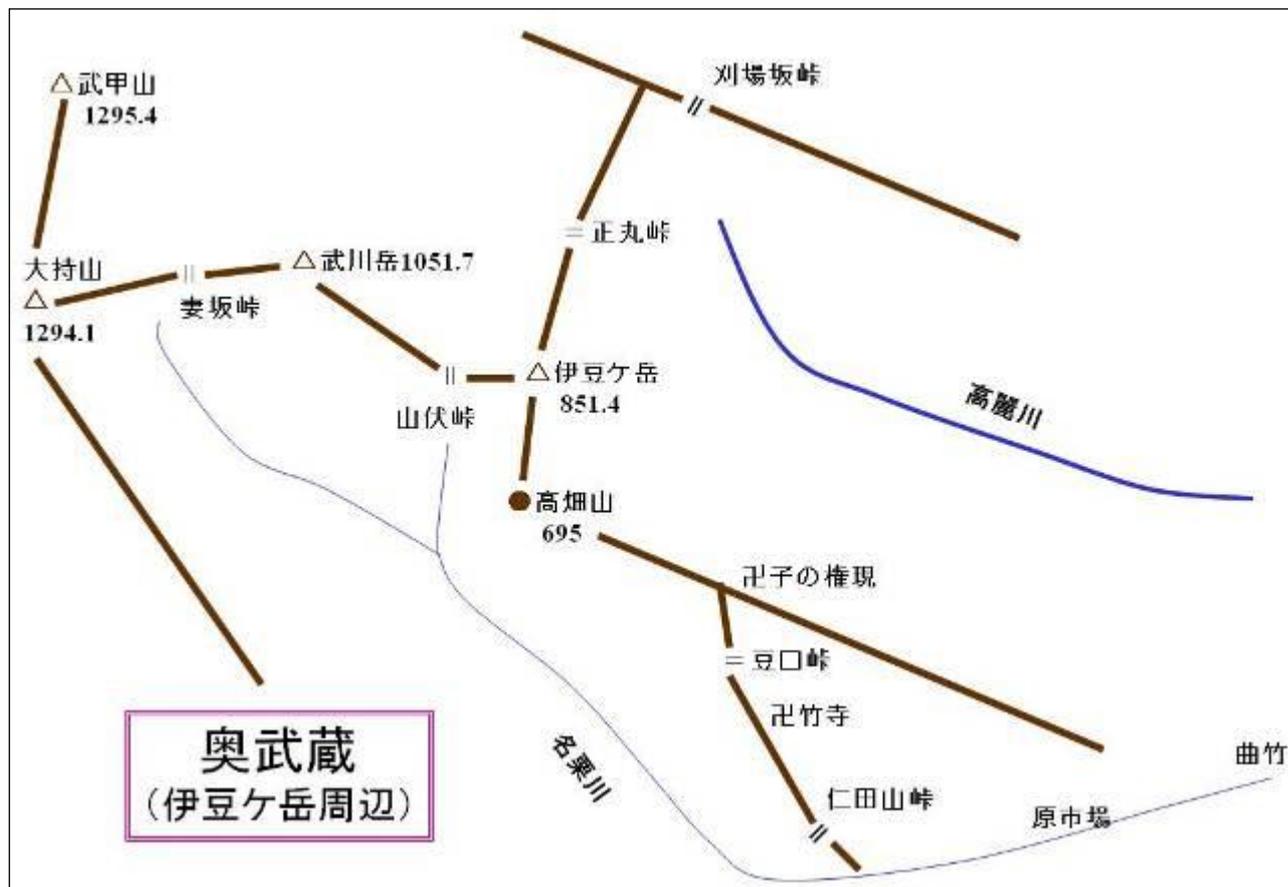
踏み跡 < My mountains >

奥武蔵	正丸峠から伊豆ヶ岳・子の権現	No.015
-----	----------------	--------

昭和 38 年 1 月 27 日

冬の奥武蔵へ二度目の試み。今回の同行は恩田、高橋。

池袋発 7:00、吾野駅に 8:30 過ぎに到着。8:45 頃発のバスに乗った。



正丸峠着は 9:24。峠はうっすらと雪化粧していた。9:30 に出発。手帳には「快晴」とメモがあるが、具体的に見えたものは何も書いてないのでわからない。

鎖場を抜けて伊豆ヶ岳 (851.4m) に 10:20 着。伊豆山権現が祀られており山岳信仰が関係している山のようなが、「伊豆 (いず)」の由来は多説あってどれが正しいかはわからないらしい。

途中で昼食の大休止をとった場所のメモがないが、コースタイムから逆読みすると高畑山 (695m) あたりだったと思われる。11:05 から 12:00 までたっぷり休憩した。

稜線は高畑山から南東に向かい、南側には名栗川の谷。中ノ沢ノ頭 (622.7m) を越えて東に進み、天目指峠 1 (あまめぎすとうげ) 12:45。天目指峠という名は天目山と関係があるのではないかと勝手に想像していたが、全く関係がないことがわかった。飯能の観光情報によると、天然の甘柿である「アマメ柿」があった焼畑 (サス) が由来らしい。地形図で見ると、この峠は海拔 487m。

小さなピークを緩やかにいくつか越えると子の権現。13:30 に到着、海拔 625m ぐらいだろうか。

正式な名前は天台宗大鱗山雲洞院天龍寺。延喜 11 年 (911 年)、子の聖 (ねのひじり) の創建によるという古いお寺。子の聖という僧は、天長 9 年子の年・子の月・子の日・子の刻に紀伊で生まれて、のちに全国を行脚したと言われており、様々な伝説・伝承が残されているらしい。東京へ出てきた小学校 6 年生の時に遠足で来たことがある。鬱蒼とした林の中を登った記憶しか残ってはいない。

ここで稜線は二つに分岐する。北側の主稜線は天覧山を経て飯能駅まで続く。我々は名栗川の流れに沿うように南に向かう枝尾根に入る。

踏み跡 < My mountains >

新豆口峠 14:10、もう海拔 600mぐらいまで下ってしまった。

581mのピークの東側に張り出す肩のような所に竹寺がある。1435 着、寺の境内に節を抜いた竹の遠眼鏡が沢山並んでいた。目をつけてみると、股めがね以上の味わいがある。望遠鏡がなかった頃の「遠方を見ることの楽しさ」がわかるような気がした。10分ほど遠めがねを楽しんだ。

竹寺の正式名称は「医王山薬寿院八王寺」。天安元年慈覚大師が東国行脚の際に疫病が流行り犠牲者が続出するのを哀れみ、この山を道場として山岳信仰の霊場を作ったのが始まりとの伝承が残っている。牛頭天王を祀り本地仏として薬師如来を配した神仏習合の霊場とした。

牛頭天王を祀った八王子信仰が基となった「八王子」の町の成立ちとの繋がりはなさそうに感じる。

仁田山峠(401m) 15:30。峠から南西に走る谷に下りて、天神峠という小さな峠を越えて原市場へ下った。

原市場 16:36 着、バスには時間がありすぎるためバス代節約も兼ねて飯能に向かって少し歩くことにした。

高橋が足を引きずりブーブー言いながらついてきたのを覚えている。結局名栗川に沿って20分ほど歩き、中藤川との合流点にある曲竹(くせたけ)という集落からバスに乗った。(16:55)

結局さほどの節約にもならなかったが、仲間割れせずに帰ってくる事ができた。

飯能駅 17:25 着、上り電車はタイミング良く 17:43 発。池袋着は 19:00、自宅帰着は 19:30 だった。

◆費用	市ヶ谷→吾野	170	吾野→正丸峠	65
	曲竹→飯能	30	飯能→池袋	130
	食費	100	合計	510円

以上

(修正・更新:2023年9月)